

文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト

「子育て環境と子どもに対する意識調査2 —父親版—」

報告書

2002年7月

甲南大学子育て研究会

文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト
「子育て環境と子どもに対する意識調査—父親版—」報告書

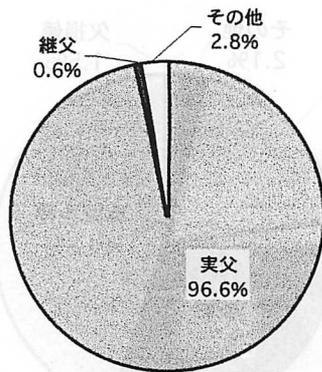
目次

はじめに	1
調査の概要	2
第1章 基礎統計	3
1 回答者について	3
2 子ども、母親（妻）について	4
3 妊娠期、出産時について	5
4 父親の子育ての状況や気持ちについて	8
5 父親が育った環境について	12
第2章 父親の子育てと諸要因との関連	14
第3章 S C Tの分析	21
まとめ	24
おわりに	26
資料（調査質問紙）	27
研究会メンバー一覧	32

第1章 基礎統計

1. 回答者について

図 1-1 回答者の続柄



回答者は、96.6%が実父であったが、継父も0.6%（3人）あった。その他は、祖父、母親である。母親の回答は、離婚などのため父親と一緒に生活していない家庭の場合が多かった。（図 1-1）

本調査では、幼児期の子どもを持つ父親の子育てを知ることを目的としているため、この後の統計では、実父と継父の回答者のみを対象とし、また、子どもの年齢が7才以上であるものを除外した。

図 1-2 父親の年齢

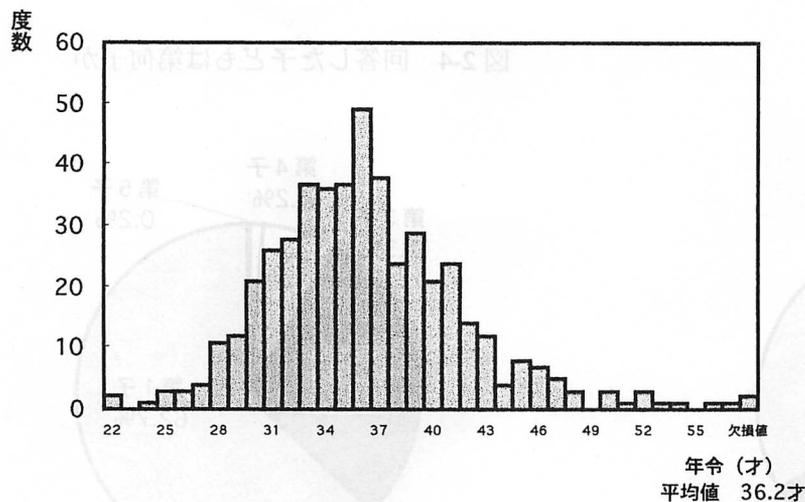
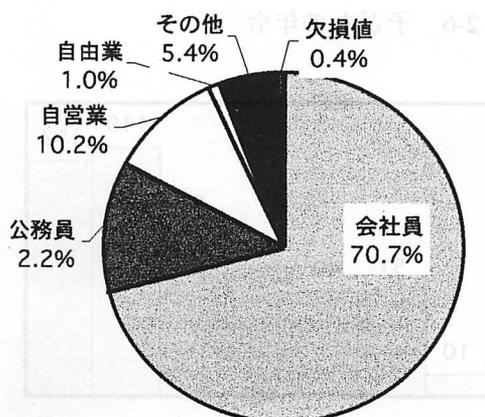


図 1-3 父親の職業



父親の年齢は、30代が最も多く、平均は36.2才であった。最低年齢は22才、最高年齢は63才である。（図 1-2）

父親の職業は、会社員が最も多く、70.7%に上っている。その他には、建設業など職種や業種を記入したものが多かった。（図 1-3）

2. 子ども、母親（妻）について

図 2-1 家族構成

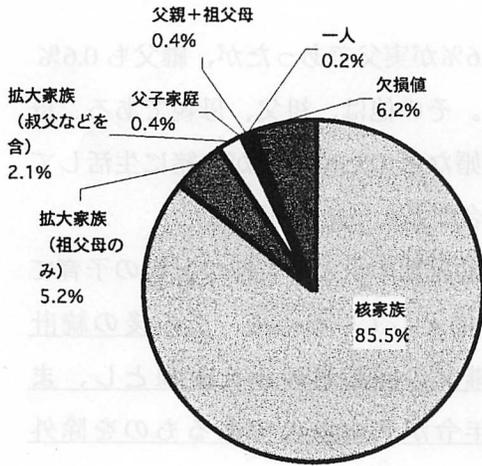


図 2-2 母親（妻）の職業

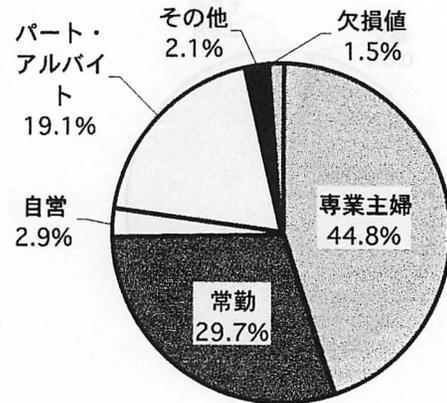


図 2-3 子どもの数

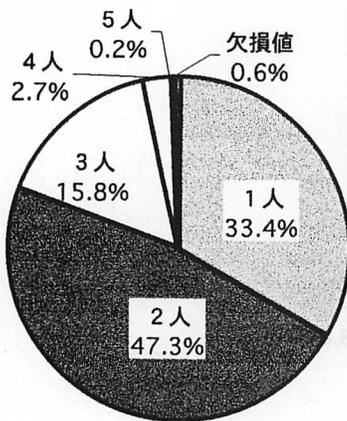


図 2-4 回答した子どもは第何子か

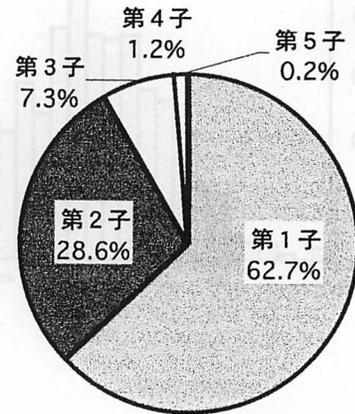


図 2-5 子どもの性別

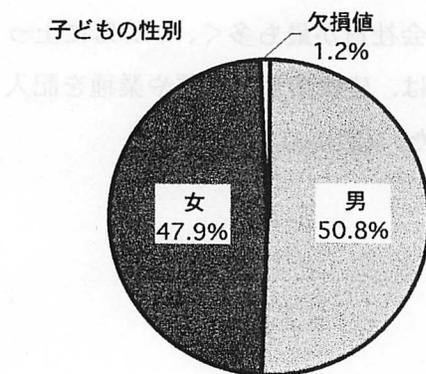


図 2-6 子どもの年齢

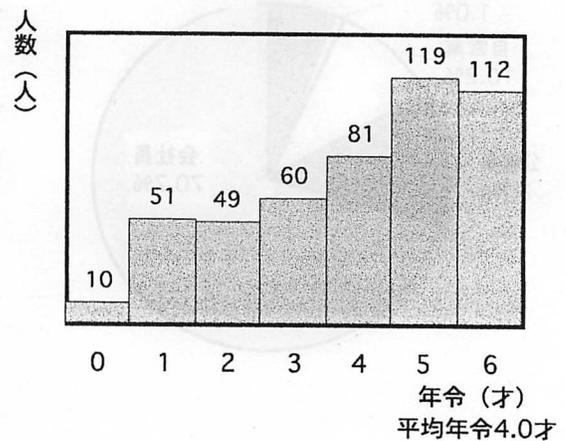
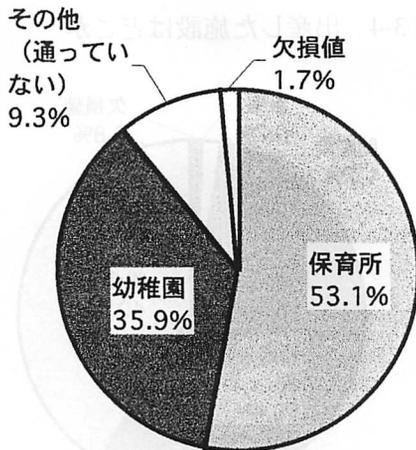


図2-7 子どもの通所先



家族構成は、85.5%が核家族であった。祖父母が同居する大家族は7.3%、母親(妻)がいない片親家庭は0.8%であった。(図2-1)

母親(妻)の職業は、44.8%が専業主婦、何らかの形で働いている人が53.8%であった。(図2-2)働いている人、中でも常勤の勤務が多い結果となっているが、これは、公立保育所を中心に調査を行ったためではないかと考えられる。

子どもの数は、2人が最も多く47.3%であった。4人と回答したのは2.7%(13人)、5人と回答したのは0.2%(1人)である。(図2-3)また、出産や子育ての状況の回答は、第1子についてが最も多く62.7%であった。(図2-4)本調査における父親の子育ては、半数以上が第1子についての関わりであると言える。

子どもの年齢は、5才と6才が多く、平均は4.0才という結果となっている。(図2-6)これは、調査用紙を主に保育所と幼稚園で配布したため、通所・通園しているのが5、6才の子どもが多かったからではないかと考えられる。

子どもの通所先では、保育所が53.1%であった。(図2-7)その他はまだ通っていない場合で、年齢が小さい子どもについて回答した場合がほとんどであった。

3. 妊娠期、出産時について

図3-1 妊娠が分かった時の気持ち

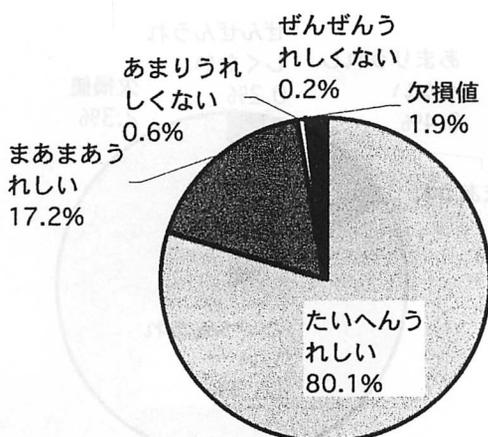


図3-2 妊婦検診に付き添ったかどうか

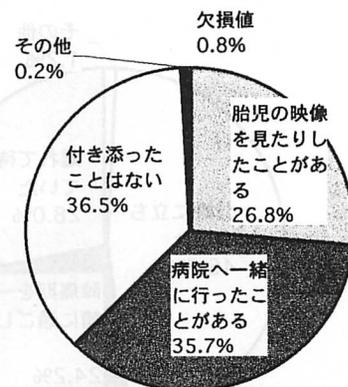


図 3-3 父親学級に参加したかどうか

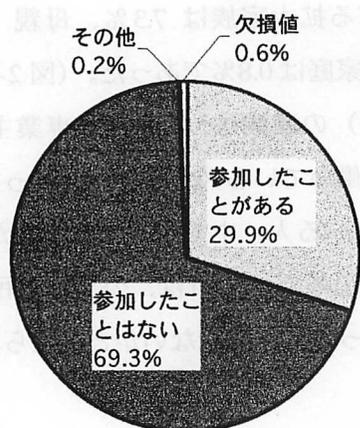


図 3-4 出産した施設はどこか

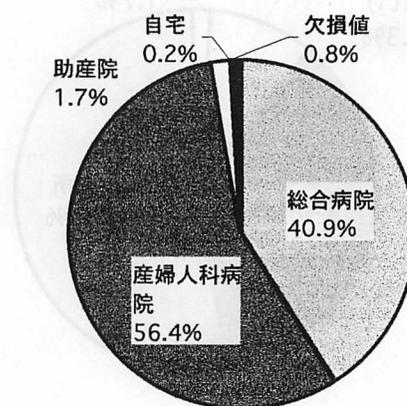


図 3-5 どのような形態の出産か

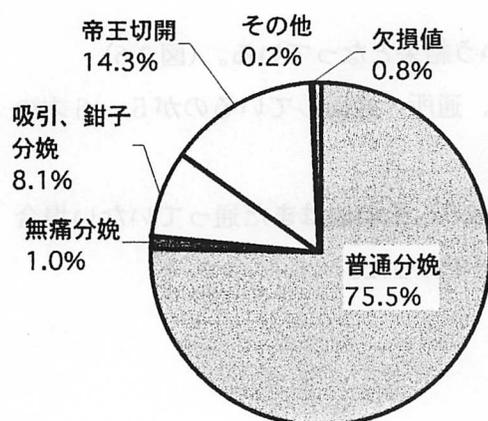


図 3-6 出産時どこにいたか

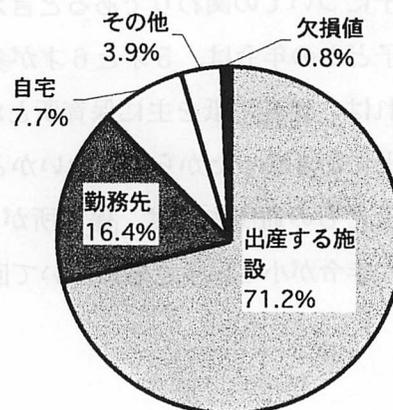


図 3-7 どんな出産援助をしたか
(出産施設にいた父親のみ)

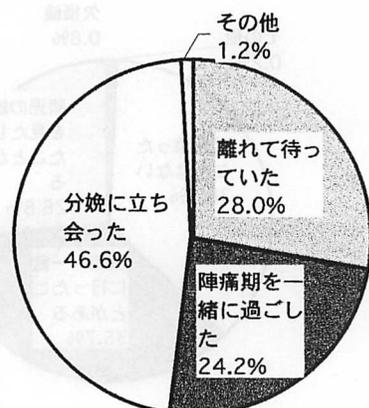


図 3-8 初めて子どもを抱いた時の気持ち

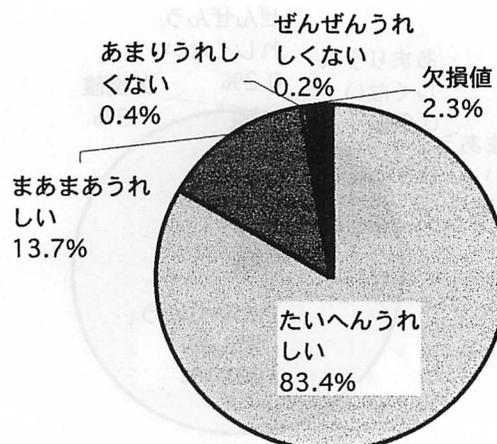
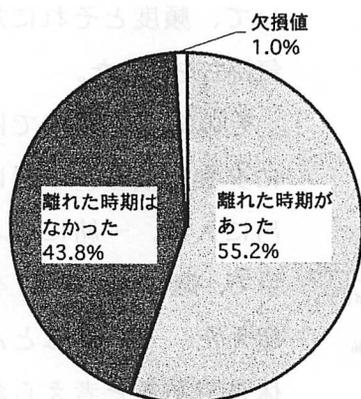


図3-9 里帰りなどで子どもと離れたかどうか



妊娠が分かった時の気持ちは、たいへんうれしいが80%を超えた。まあまあうれしい、あまりうれしくないに回答した人の中には、結婚前だったので、経済的に厳しかったのでなどの理由を記入している人もいた。(図3-1)

妊婦検診に付き添ったかどうかでは、何らかの形で病院に付き添ったことがある人が60%を超えているが、映像や心音などで胎児の存在を感じた人は26.8%であった。(図3-2)

父親学級や両親学級に参加したかどうかでは、参加したことがあるのは30%に満たなかった。参加したことがない人の中には、父親学級はまだないと記入しているなど父親学級の存在自体を知らない人もいた。(図3-3)

出産した施設は、産婦人科病院が56.4%と高率になったが、これは産婦人科医院に協力を依頼したためと考えられ、一般的な比率とは少し異なっていると考えられる。(図3-4)

出産の形態は普通分娩が75.5%に上っており(図3-5)、出産時に父親がどこにいたかでは、出産する施設にいた人が70%を上回っている。しかし、単身赴任先、出張先を含めた勤務先にいた人も16.4%いた。その他の中には、病院へ行く交通機関の中だったなどの回答があった。(図3-6)

また、出産する施設にいた父親のみを対象に、どのような出産援助をしたかを尋ねた項目では、陣痛期を妻と一緒に過ごした人が24.2%、分娩まで立ち会った人が46.6%という結果であった。

(図3-7) 分娩に立ち会った人46.6%は、回答者全体の33.2%に相当し、父親の約30%が出産に立ち会っていると考えられる。

初めて子どもを抱いた時の気持ちは、たいへんうれしいがほとんどを占め、83.4%であった。

(図3-8)

里帰りなどで子どもと離れた時期があったかどうかでは、離れた時期があった人が55.2%で半数を上回った。(図3-9) この中には、単身赴任や長期出張などで出産時に離れて暮らしていた人も少数含まれているが、ほとんどは里帰り出産のためであると考えられる。

4. 父親の子育ての状況や気持ちについて

(1) 子どもと一緒に夕食をとる

図 4-1-1 頻度

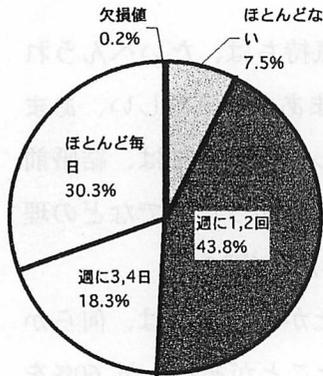
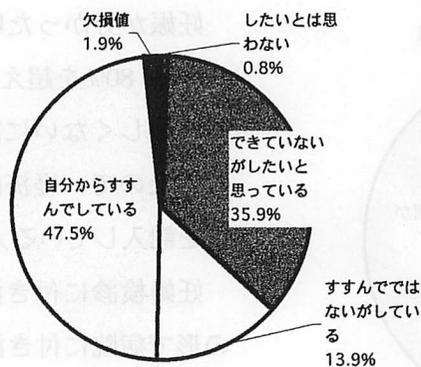


図 4-1-2 気持ち



(2) 子どもと一緒にお風呂に入る

図 4-2-1 頻度

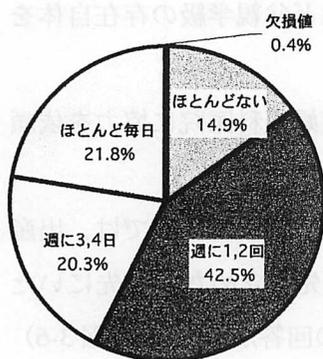
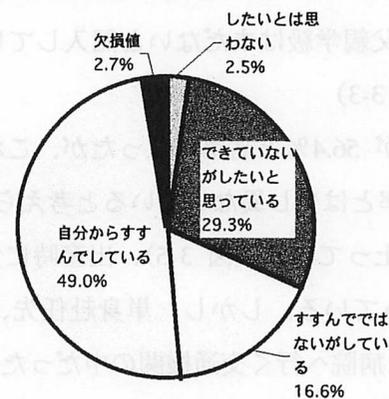


図 4-2-2 気持ち



(3) 子どものあそび相手になって一緒に遊ぶ

図 4-3-1 頻度

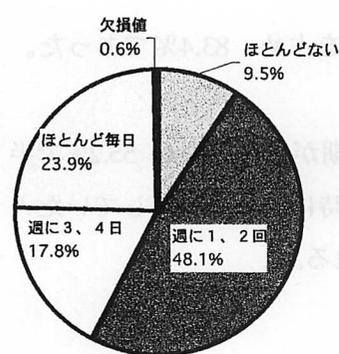
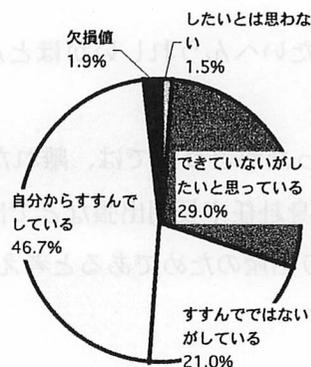


図 4-3-2 気持ち



父親が生活面でどのような子どもとの関わりを持っているのか、生活場面について、頻度とそれに対する気持ちを尋ねた。

その結果、頻度では一緒に夕食を取る、一緒にお風呂に入る、一緒に遊ぶの項目で、週に1,2回が40%を超えた。これはほとんどが休日であると考えられ、普段の生活の中では、父親があまり子どもと時間を過ごせていない現状が明らかとなった。

気持ちでは、自分からすすんでしているが3項目とも50%近くに上っており、自ら関わりたいと思っている父親が約半数であると言える。また、できていないがしたいと思っているもそれぞれ約30%あり、現在の子どもとの関わりに満足していない父親も続いて多かった。その一方、すすんではないがしているという父親もあり、特に一緒に遊ぶの項目では、21.0%の父親が消極的であった。

(4) 子どもをだっこしたり、スキンシップをする

図 4-4-1 頻度

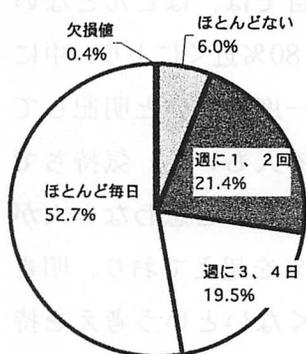


図 4-4-2 気持ち

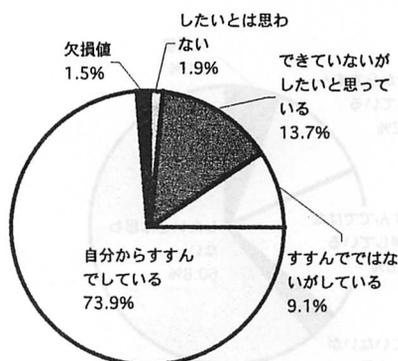


図 4-4-3 どんな時にだっこしたり、スキンシップするか

出勤時、帰宅時	79	家にいる時、休みの日	25
甘えてきた時、求めてきた時	51	気が向いたら、暇な時	20
いつもしている	45	寝る前	17
遊んでいる時	37	その他	96
泣いた時	26		
	合計		396

(5) しつけのために、子どもを言葉で叱る

図 4-5-1 頻度

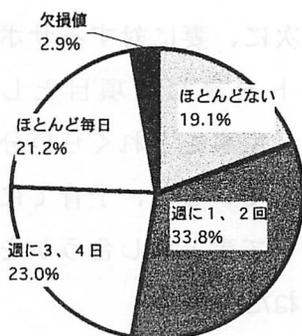


図 4-5-2 気持ち

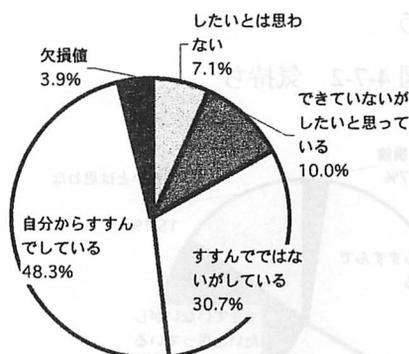


図 4-5-3 どんなことをした時に言葉で叱るか

行儀が悪い時	74	人に迷惑をかけたとき	30
危ないことをした時	72	片付けない時	13
いたずら・悪いことをした時	62	わがまま	11
言うことを聞かないとき	54	ウソをつく	10
兄弟げんか・下の子をいじめた時	31	その他	60
	合計		416

スキンシップや叱り方の項目では、頻度と気持ちに加えて、どんな時にするかを具体的に記述してもらった。

スキンシップは、ほとんど毎日が 52.7%、気持ちも自分からすすんでしているが 73.9% に上り、父親は子どもと積極的に触れ合っていると考えられる。触れ合う時は、回答者 482 人のうち、396 人の記述があり、帰宅時などの挨拶が多く、また、子どもからの要求に応えるものが多かった。

子どもを言葉で叱る項目では、頻度は様々であり、気持ちでは自分からすすんでしているとできていないがしたいと思っているを合わせると約 60%、すすんでではないがしているとしたいとは思わないを合わせると約 40% となり、しつけに関わろうとする父親とそうでない父親が別れる結果となった。どんな時に言葉で叱るかでは、行儀が悪い時、危ないことをした時が多かった。

(6) しつけのために、子どもを叩いて叱る

図 4-6-1 頻度

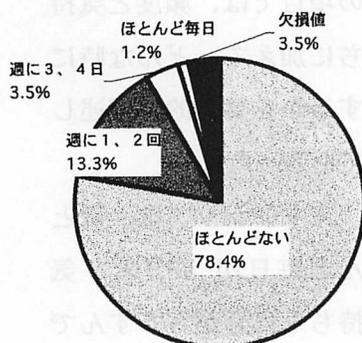


図 4-6-2 気持ち

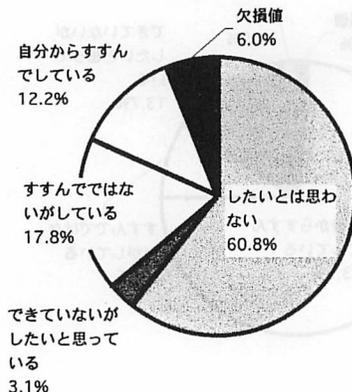


図 4-6-3 どんなことをした時に叩いて叱るか

口で言っても聞かないとき	66	他人に迷惑をかけた時	29
危ないことをした時	42	行儀が悪い時	20
悪いことをした時	35	下の子をいじめた時	10
叩かない・叩く必要はない	30	その他	28
		合計	260

子どもを叩いて叱るの項目では、ほとんどないが80%近くに上り、中には一度もないと明記している人もいた。気持ちでもしたいと思わない人が60%を超えており、叩きたくないという考えを持ち、叩かずにしつけようとしている父親が多いと考えられる。どんな時に叩くかでは、口で言っても聞かない時が最も多く、いきなり叩くのではなく、一度言葉で叱り、どうしても聞かない時に叩いているのではないかと思われた。

(7) 家の仕事を分担して手伝う

図 4-7-1 頻度

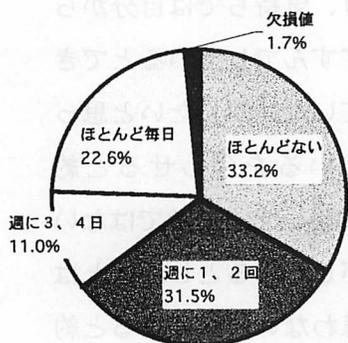
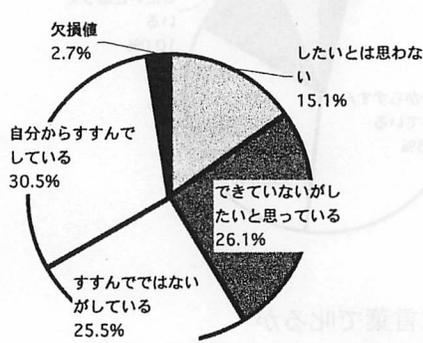


図 4-7-2 気持ち



次に、妻に対するサポートを尋ねる項目として、家事をどれくらい分担しているか、子育てについて妻と話し合うかを尋ねた。

家事の分担、話し合い共に、ほとんどないと週に1,2回を合わせると60%に上っている。父親は、家事を分担したり、子育てについて妻と話し合う機会をあまり持っていない現状であると考えられる。

(8) 子育てについて、お母さん（妻）と話し合う

図 4-8-1 頻度

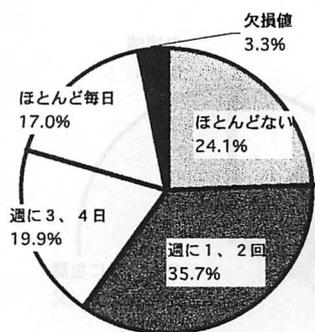
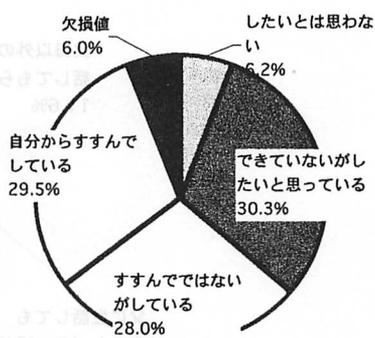


図 4-8-2 気持ち



また気持ちでは、すすんでではないがしているとしたいとは思わないと合わせると、家事の分担では40.6% 妻との話し合いでは34.2% になり、妻に対するサポートにおいては、家事を分担することの方が消極的であるという結果となった。

(9) 子育てについて、知人と話をする

図 4-9-1 頻度

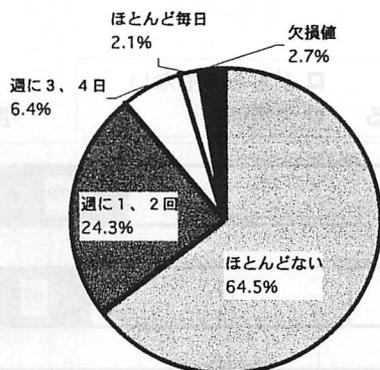
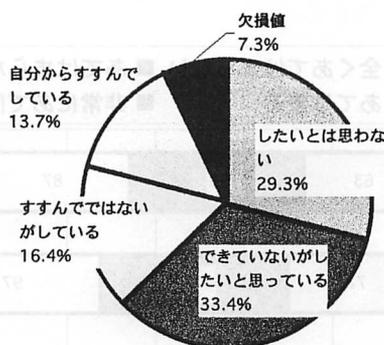


図 4-9-2 気持ち



また、子育てに関して、家族以外との関わりを尋ねる項目として、子育てについて知人と話をするかを尋ねた。

子育てについて知人と話をする機会はほとんどないが64.5%であった。気持ちでは、したいとは思わない

が29.3%ある一方、できていないがしたいと思っているも33.4%あり、できていないがしたいと思っていると自分からすすんでしているを合わせると約50%になる。家族以外の人と子育てについて話をする機会がない父親がほとんどであるが、機会があれば関わりを持ちたいと思っている父親は約半数いると考えられる。

5. 父親が育った環境について

図 5-1 家族構成

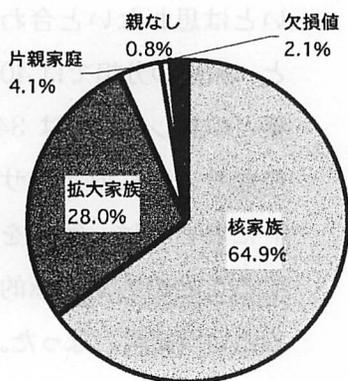


図 5-2 子どもの頃世話してくれたのは誰か

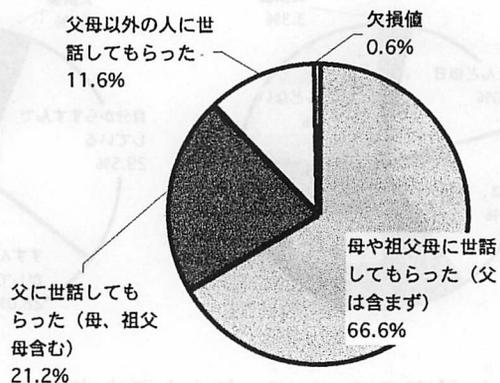
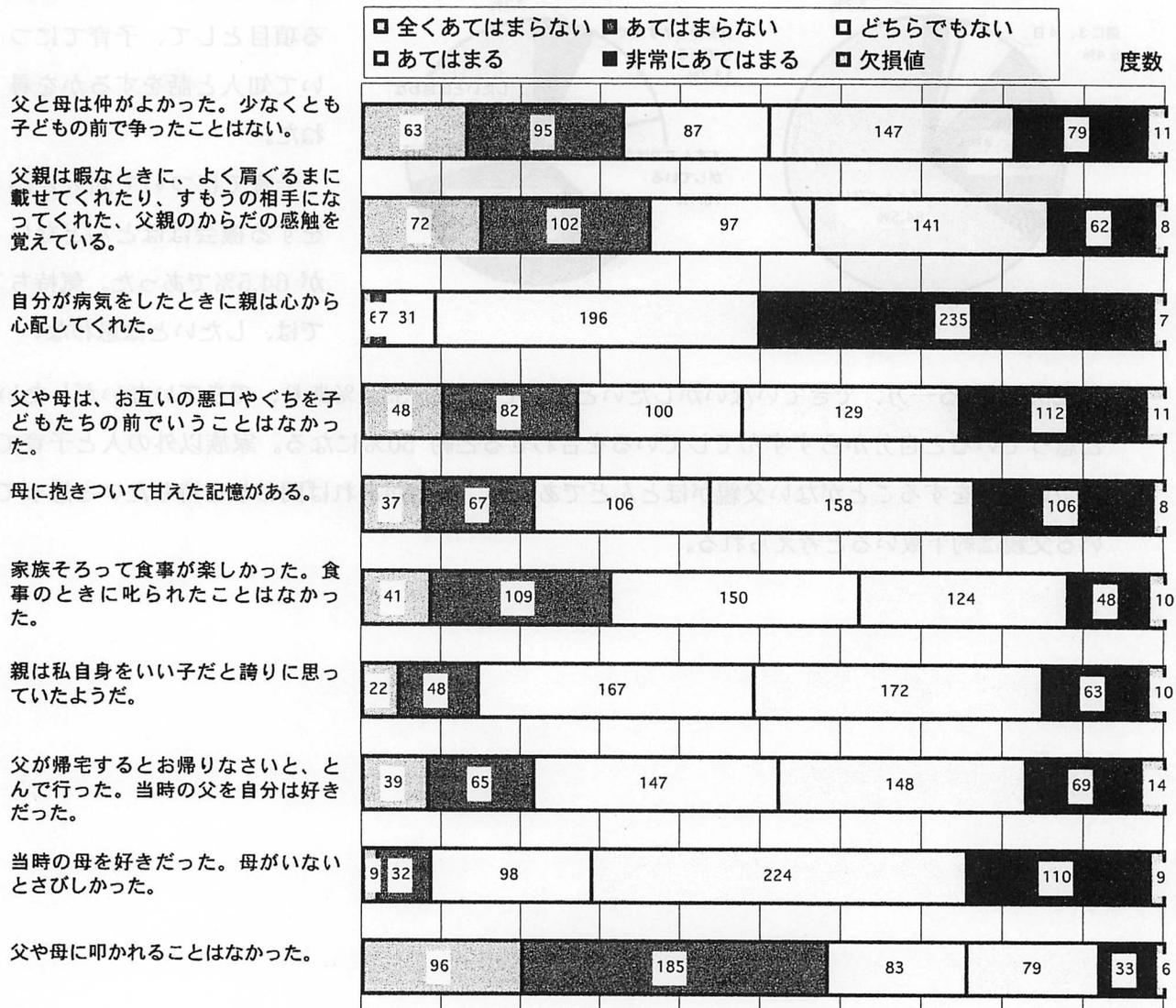


図 5-3 幼児期について



父親自身が育った環境についての項目では、父親が育った家族構成は、64.9%が核家族であった。拡大家族は祖父母や叔父など同居する家族が含まれ、片親家庭は母子家庭、父子家庭、また片親と祖父母と同居する家族が含まれており、それぞれ拡大家族が 28.0%、片親家庭が 4.1%であった。また、子どもの頃に世話してくれた人を尋ねた項目では、父親を含まずに母親や祖父母に世話してもらった人が 66.6%で最も多く、父親に世話してもらったのは 21.2%であった。

幼児期については、幼児期の父親や母親との関わりを尋ねる質問項目に、それぞれ全くあてはまらない、あてはまらない、どちらでもない、あてはまる、非常にあてはまるの 5 段階で答えてもらった。自分が病気をしたときに親は心から心配してくれたの項目で、あてはまる、非常にあてはまるを合わせると 90%近くになるなど、幼児期に親の愛情を感じられた人が多いと考えられる。しかし、父や母に叩かれることはなかったの項目では、全くあてはまらない、あてはまらないを合わせると 60%近くに上り、親に叩かれた経験がある人の方が多いという結果であった。

また、幼児期についての質問項目は、「幼児期の幸福度チェックリスト」（詫摩武俊、1984 作成）の中から父母に関する項目を 10 項目抜粋した。「幼児期の幸福度チェックリスト」では、はい・いいえの 2 評価だが、今回の調査では全くあてはまらない・あてはまらない・どちらでもない・あてはまる・非常にあてはまるの 5 評価で回答してもらった。さらに、全くあてはまらないを 1 点、非常にあてはまるを 5 点としてそれぞれ 1 点から 5 点までの点数をつけ、その合計点を幼児期の幸福度とした。その結果、最低点は 11 点、最高点は 50 点であり、全体の平均点は 33.7 点であった。

第2章 父親の子育てと諸要因との関連

父親の子育ての現状について調べるために、日常的にどの程度子育てに参加しているかを問う項目を9項目作成した(表1)。各々の項目について参加の「頻度」と「それに関する気持ち」の二通りを問うた。頻度については、ほとんど毎日、週に3,4日、週に1,2回、ほとんどないの四件法とし、「気持ち」については、自分からすすんでしている、すすんでではないがしている、できていないがしたいと思っている、したいとは思わないの四件法とした。後者については、問い方が若干複雑で、四件法の右に行けばいくほど参加の姿勢が強いとは必ずしも言えないが、今回の分析では便宜上、このような順序であるとして扱った。

「頻度」と「気持ち」は質的に異なるデータであるが、相互の関係について示唆が得られることを期待して、まとめて因子分析を行った(主成分法、バリマックス回転)。質問項目を分類する際の整合性から、因子数は4とした。結果を表1に示す。

表1

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
子どもと一緒に夕食をとる・頻度	.807	-1.766E-02	.147	.152
子どもと一緒に遊ぶ・頻度	.729	.220	8.847E-02	.137
子どもと一緒に風呂に入る・頻度	.702	4.510E-02	.268	.212
子どもをだっこしたり、スキンシップをする・頻度	.649	.243	1.830E-02	.198
子どもと一緒に夕食をとる・気持ち	.648	.310	2.906E-03	-6.754E-02
子どもと一緒に風呂に入る・気持ち	.553	.434	.124	-.133
子どもをだっこしたり、スキンシップをする・気持ち	.488	.488	-7.032E-02	-1.660E-02
子育てについて、お母さん(妻)と話し合う・気持ち	.171	.749	9.414E-02	.282
家の仕事を分担して手伝う・気持ち	.154	.730	.208	.125
家の仕事を分担して手伝う・頻度	.180	.595	.280	.241
子育てについて、お母さん(妻)と話し合う・頻度	.183	.576	6.883E-02	.436
子どもと一緒に遊ぶ・気持ち	.513	.520	1.494E-02	-.212
しつけのために、子どもを叩いて叱る・気持ち	-2.408E-02	.200	.741	-2.264E-02
しつけのために、子どもを叩いて叱る・頻度	-8.763E-02	.146	.731	-4.381E-02
しつけのために、子どもを言葉で叱る・頻度	.351	-4.402E-02	.726	.138
しつけのために、子どもを言葉で叱る・気持ち	.202	6.060E-02	.552	7.949E-02
子育てについて知人と話をする・頻度	9.499E-02	.128	6.285E-03	.859
子育てについて知人と話をする・気持ち	9.245E-02	.211	7.445E-02	.796

父親の子育て参加は、次の四つの因子からなると考えられる。第一因子は子どもと一緒に時間を過ごすことについての項目であることから、「子どもとの生活面での関わり」と命名した。第二因子は妻や家事との関係であることから、「妻との関わり」、第三因子はし

つけに関わるので「子どもとの厳しい関わり」、第四因子は子育てについて知人と話すことであるので「知人との関わり」とそれぞれ因子名をつけた。なお、「子どもと一緒に遊ぶ・気持ち」「子どもをだっこしたりスキンシップをする・気持ち」の二項目は第一因子と第二因子にまたがるような値を示しており、「親密なつながり」といったような意味合いを反映していると考えられる。

次に上の9項目について、子育て参加についての（自己評価ではあるが）量的指標である「頻度」のみの得点を加算し、「子育て参加度」尺度とした。子育て参加度の最低は9、最高は35、平均は20.6であった。以下の分析は、この「子育て参加度」と、他の要因との関連についてのものである。

図1 父親の職業と父親の子育て参加度との関連

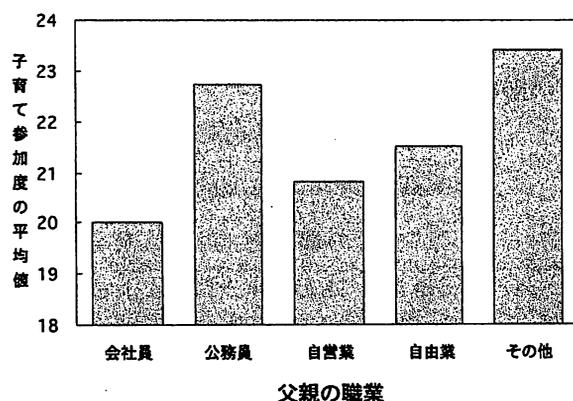


図1は、父親の職業による、父親の子育て参加度の平均値である。会社員20.0、公務員22.7、自営業20.8、自由業21.5、その他23.4であった。職業によって子育て参加度の平均値に有意な差があるかどうかについて一元配置分散分析を行ったところ、有意な差 ($p < .001$) が見られた。多重比較 (Tukey 法) の結果、会社員と公務員、会社員とその他の間に有意な差が見られ、会社員である父親が最も子育て参加度が低いという結果となった。

図2 父親の年齢と父親の子育て参加度との関連

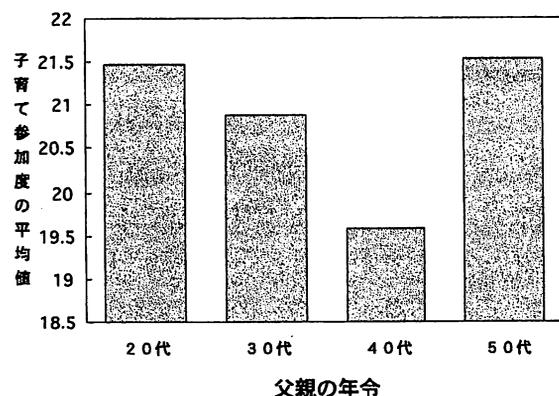


図2は、父親の年齢による父親の子育て参加度の平均値である。20代が21.5、30代が20.9、40代が19.6、50代が21.6であった。父親の年齢によって、子育て参加度の平均値に差があるかどうか一元配置分散分析を行ったところ、有意な差は見られなかったが、40代の父親が最も子育て参加度が低いという結果となった。図5に示すように、子どもの年齢が上がると子育て参加度は低くなっており、それが父親の年齢による参加度の変化にも反映されていると考えられる。

図3 母親（妻）の職業と父親（夫）の子育て参加度との関連

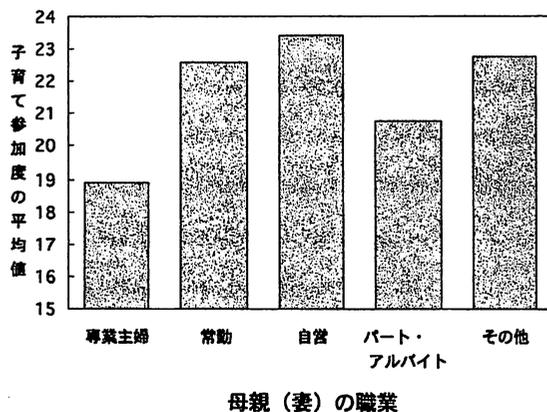


図3は、母親（妻）の職業による、父親の子育て参加度の平均値である。専業主婦 18.9、常勤 22.6、自営 23.4、パート・アルバイト 20.8、その他 22.8であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p<.001$) が見られた。多重比較 (Tukey 法) の結果、専業主婦と常勤、自営、パート・アルバイトの間にそれぞれ有意な差が見られ、専業主婦の妻を持つ父親が、最も子育て参加度が低かった。

図4 子どもの数と父親の子育て参加度との関連

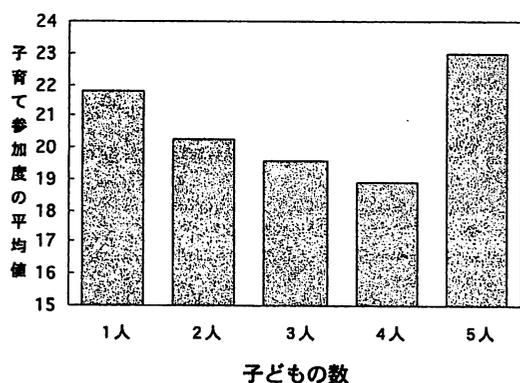


図4は、子どもの数による、父親の子育て参加度の平均値である。子どもが1人の場合は 21.7、2人は 20.8、3人は 19.6、4人は 18.9、5人は 23.0であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p<.05$) 見られた。また、5人の回答が1例であったため除外して多重比較 (Tukey 法) を行ったところ、子どもの数が1人の父親と2人、3人の父親の間に有意な差が見られ、子どもが1人の父親の方が参加度が高かった。

図5 子どもの年齢と父親の子育て参加度との関連

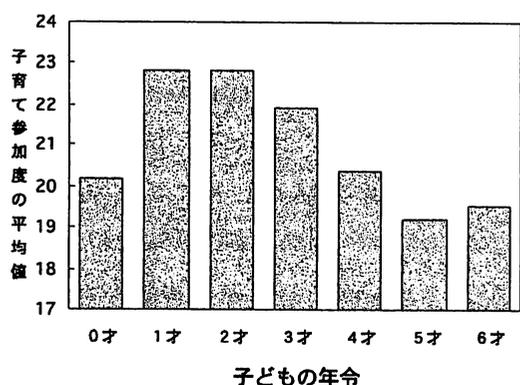


図5は、子どもの年齢による、父親の子育て参加度の平均値である。0才が 20.2、1才が 22.9、2才が 22.9、3才が 21.9、4才が 20.4、5才が 19.2、6才が 19.5であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p<.001$) が見られ、1才から3才の子どもを持つ父親の子育て参加度が5、6才の子どもを持つ父親に比べて有意に高かった。

図6 妊娠が分かった時の父親の気持ちと子育て参加度との関連

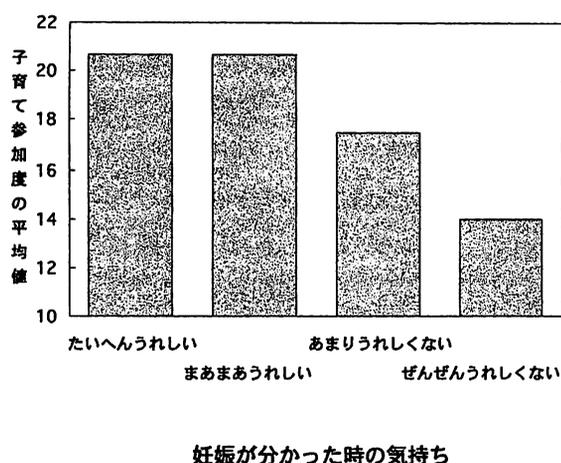


図6は、妊娠が分かった時の父親の気持ちによる、父親の子育て参加度の平均値である。たいへんうれしい20.7、まあまあうれしい20.7、あまりうれしくない17.5、ぜんぜんうれしくない14.0であった。一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られず、あまりうれしくない、ぜんぜんうれしくないが若干低くなっているものの、参加度に有意な関連性は見られなかった。

図7 父親の妊婦検診の付き添い経験と子育て参加度との関連

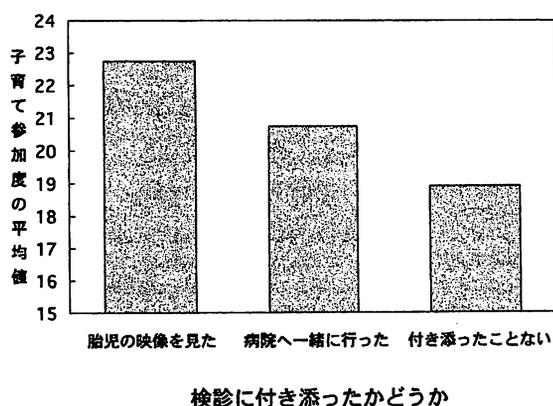


図7は、妊婦検診の付き添い経験の有無による、父親の子育て参加度の平均値である。胎児の映像を見たりした22.8、病院へ一緒に行った20.8、付き添ったことはない18.9であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p < .001$) が見られ、多重比較 (Tukey法) を行ったところそれぞれの間に有意差があり、検診に積極的に参加した父親の方が子育て参加度が高かった。

図8 父親の父親学級の参加経験と子育て参加度との関連

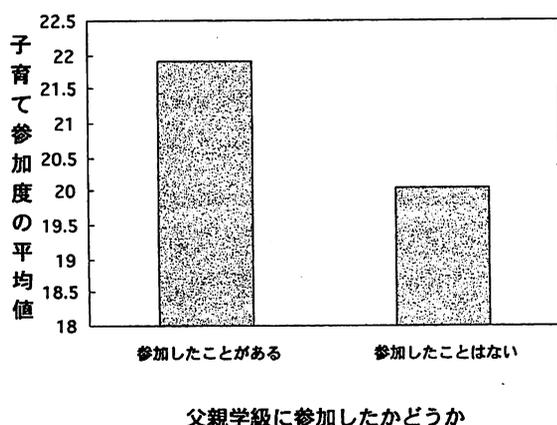


図8は、父親学級の参加経験の有無による、父親の子育て参加度の平均値である。参加したことがあるが21.9、参加したことがないが20.1であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p < .05$) が見られ、父親学級に参加した経験のある父親の方が、子育て参加度が高かった。

図9 出産した施設と父親の子育て参加度との関連

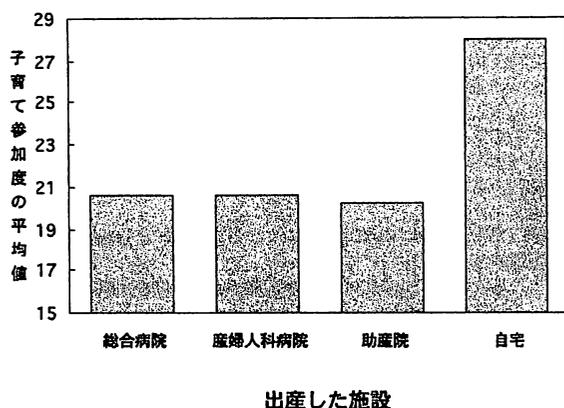


図9は、出産した施設による、父親の子育て参加度の平均値である。総合病院が20.6、産婦人科病院が20.6、助産院が20.3、自宅が28.0であった。一元配置分散分析を行ったところ、有意な差は見られず、出産した施設と父親の子育て参加度の間には、有意な関連性が見られなかった。なお、自宅でお産したのは、1例のみであった。

図10 出産時の父親の居場所と子育て参加度との関連

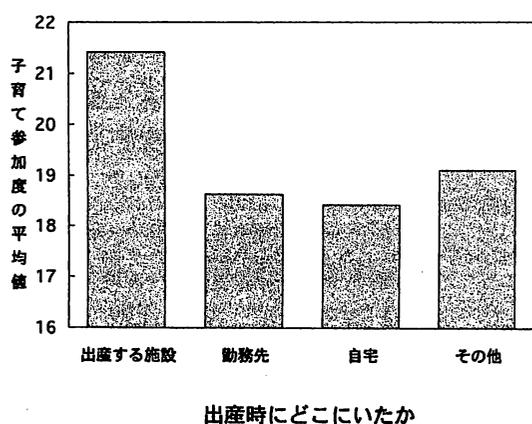


図10は、出産時の父親の居場所による父親の子育て参加度の平均値である。出産する施設21.4、勤務先18.6、自宅18.4、その他19.1であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p < .001$) が見られた。多重比較 (Tukey 法) の結果、出産する施設と勤務先、自宅との間に有意な差があり、出産する施設にいた父親の方が、子育て参加度が高かった。

図11 父親の出産援助と子育て参加度との関連

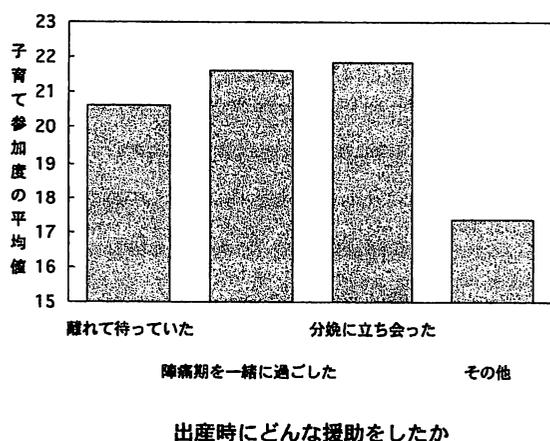


図11は、父親の出産援助による、父親の子育て参加度の平均値である。離れて待っていた20.7、陣痛期を一緒に過ごした21.6、分娩に立ち会った21.8、その他17.3であった。一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。積極的に出産援助をした父親の方が、若干子育て参加度は高いものの、有意な関連性はなかった。

図 12 里帰りの有無と父親の子育て参加度との関連

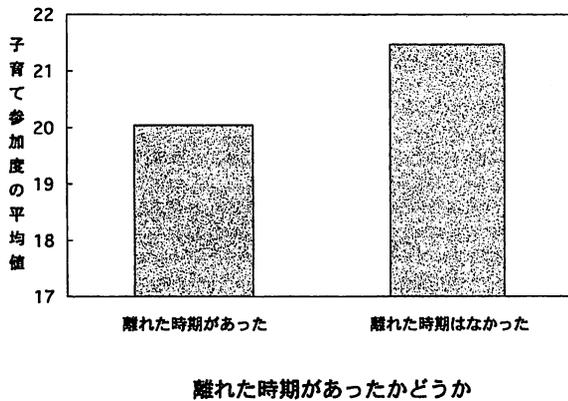


図 12 は、里帰りの有無による、父親の子育て参加度の平均値である。離れた時期があった 20.0、離れた時期がなかった 21.5 であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p<.05$) が見られ、里帰りなどで子どもと離れる時期がなかった父親の方が、子育て参加度が高かった。

図 13 父親が子どもの頃父親に世話してもらった経験と子育て参加度との関連

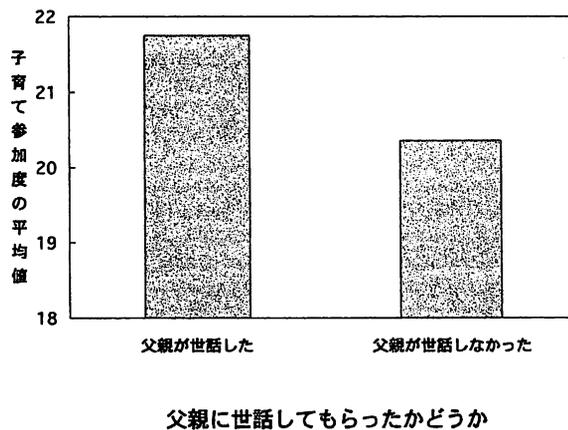


図 13 は、父親が子どもの頃自分の父親に世話してもらった経験による、子育て参加度の平均値である。父親に世話してもらった 21.8、父親に世話してもらわなかった 20.3 であった。一元配置分散分析の結果、有意な差 ($p<.05$) が見られ、子どもの頃に自分の父親に世話してもらった経験を持つ父親の方が、子育て参加度が高かった。

図 14 父親の子どもの頃の幸福度と子育て参加度との関連

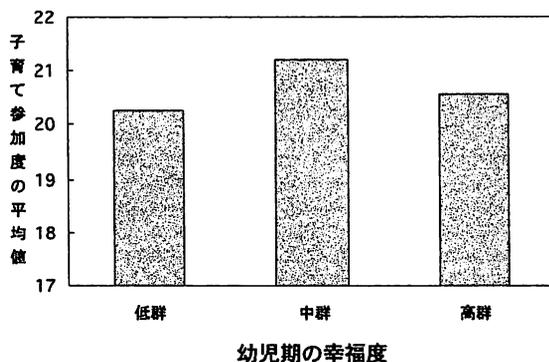


図 14 は、父親の子どもの頃の幸福度と子育て参加度との関連である。幸福度を高群、中群、低群に分け、それぞれの子育て参加度の平均値を求めた結果、高群 20.3、中群 21.2、低群 20.6 であった。一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られなかった。父親の子どもの頃の幸福度と子育て参加度には、有意な関連性はなかった。

図 15 父親の親に叩かれた経験と子育て参加度との関連

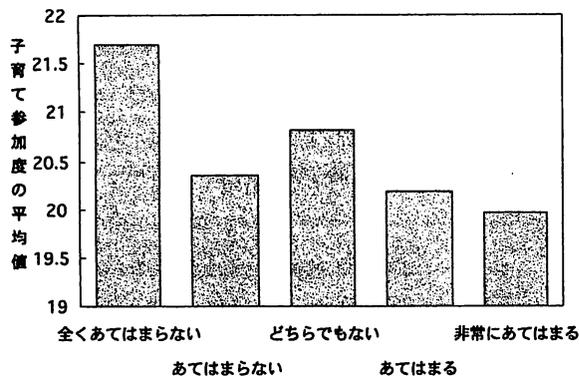


図 15 は、子どもの頃親に叩かれた経験による、父親の子育て参加度の平均値である。全くあてはまらない 21.7、あてはまらない 20.3、どちらでもない 20.8、あてはまる 20.4、非常にあてはまる 20.0 であった。一元配置分散分析を行ったが、有意な差は見られず、子どもの頃親に叩かれた経験と子育て参加度の間には有意な関連性は見られなかった。

父や母に叩かれることはなかった

分析の結果、まず、父親の子育て参加度は、父親や母親（妻）の職業、子どもの数や年齢など家庭の状況に関連があった。家庭の状況によって、父親に求められるものに違いがあると考えられ、また、母親（妻）が働いているかどうかや、子どもの世話にどれくらい手がかかるかなどの違いによって、父親の役割や意識が変わってくるのではないかと考えられる。

次に、父親の子育て参加度は、妊娠期、出産時の関わり方に関連が見られた。妊婦検診、父親学級に積極的に参加した父親の方が子育て参加度が高く、また、出産する施設にいた父親、里帰りなどで離れた時期がなかった父親の方が子育て参加度が高かった。妊娠期から出産時に妻と積極的に関わり、子どもが生まれて来る前から関心が高かった父親は、その後の子育て参加にも積極的であると考えられる。

父親の子どもの頃の状況と子育て参加度との関連では、父親に世話をしてもらった経験に有意差が見られたものの、幸福度や親に叩かれた経験とは関連が見られなかった。父親の子育て参加は、育った状況とはあまり関連がないと考えられるが、子どもの世話をする父親を見ていたことは、父親自身が子育てをする際のモデルになるのではないかと考えられる。

第3章 S C Tの分析

本調査では、父親の家族や子育てについてのイメージを知る目的で、S C T（文章完成法テスト）を試みた。項目は、以下の6項目である。

1. 私にとって子どもとは_____
2. 子育ては_____
3. 私にとって家族とは_____
4. 私の父_____
5. 私の母_____
6. 妻_____

各項目について内容を分類し、また、代表的と思われる記述を例に挙げる。

1. 私にとって子どもとは

表1

内容	度数	%
宝	145	32.3
大切・かけがえのないもの	129	28.8
分身	34	7.6
生き甲斐	25	5.6
安らぎ	25	5.6
可愛い	22	4.9
夢・未来	20	4.5
責任	5	1.1
その他	43	9.6
記入合計	448	100.0

子どもについての記述では（表1）、宝、大切、生き甲斐などの記述が半数を超え、人生の中で子どもが重要な位置を占めていることが伺える。記述の最後に「自分を映す鏡」「自分自身を成長させてくれる鏡のような存在」といった記述がある人が多く、子どもの存在によって自分が成長していると感じる人が多いと考えられる。ネガティブなイメージのみの記述はほとんどなく、その他に分類されたものの中には「宝でもあり荷物」「不思議な存在」「不可解な生物」といった記述が見られた。

2. 子育ては

表2

内容	度数	%
大変	177	40.6
楽しい	75	17.2
親育て	45	10.3
子育てについての考え方	41	9.4
大切	34	7.8
両親で育てるもの	23	5.3
責任・義務	19	4.4
妻が育てるもの	10	2.3
その他	12	2.7
記入合計	436	100.0

子育てについての記述では（表2）、大変という内容を記入した人が40%を超えている。多くの父親は、子育てを難しく、大変なものだと感じている。しかし、子育てを楽しめるもの、大切なものと捉える父親も多く、自分自身が成長していくことだと感じている人もおり、子育てに積極的に関わろうとする姿勢が感じられる。その一方、少数ではあったが、子育ては妻の仕事であるという記述もあった。

3. 私にとって家族とは

表 3

内容	度数	%
大切・かけがえのないもの	140	32.4
安らぎ	98	22.8
生きる力	53	12.3
宝物	45	10.5
共同体	20	4.7
守るべきもの	17	4.0
希望・幸せ	7	1.6
当たり前	7	1.6
帰る場所	5	1.2
いいもの	5	1.2
その他	33	7.7
記入合計	430	100.0

家族についての記述では（表3）、大切、宝物、かけがえのないものなどの記述が32%に上り、生きていく上でなくてはならない場所であると捉えている人が多かった。また、安らぎ、帰る場所などの記述も多く、仕事で疲れた自分自身を癒す場として、家庭を認識している父親が多いことが伺えた。一方で、生きる力、守るべきものなど、大きな責任を感じている父親も多い。その他の中には、「面倒」「戦争」「プレッシャー」などの記述があり、離れて暮らしていることについて「一緒に暮らしたい」という記述も少数あった。

4. 私の父

表 4

内容	度数	%
頑固・厳しい	54	13.2
偉大・目標	50	12.2
大きい・優しい	50	12.2
尊敬・誇り	47	11.5
嫌い・いい記憶がない	38	9.3
仕事をしていた	36	8.8
その他ポジティブイメージ	36	8.8
その他ネガティブイメージ	19	4.7
その他	79	19.3
記入合計	409	100.0

自分の父親については（表4）、頑固だった、厳しかったという記述が最も多かったが、全体としては、偉大である、優しい、尊敬しているを合わせると35%に上り、自分の父親に対して少し距離を感じるポジティブなイメージを持っている人が多いと感じられた。その一方で、嫌い、いい記憶はないという記述もあり、その中には酒を飲んだなどネガティブ感情の強いものもあった。個人的な記述も多く見られ、それらはその他に分類した。

5. 私の母

表 5

内容	度数	%
優しい	66	16.4
育ててくれた・働いていた	54	13.5
苦労した・感謝している・大切	50	12.5
うるさい・嫌い・怖い	46	11.5
偉大・尊敬	35	8.7
頼れる・守ってくれる	34	8.5
その他ポジティブイメージ	31	7.7
悲しい・我慢していた・犠牲	20	5
その他	65	16.2
記入合計	401	100.0

自分の母親については（表5）、圧倒的にポジティブな記述が多かった。優しいという記述のみで16%を超え、母親を優しく感じたと感じている人が多いことが伺える。育ててくれたことについて感謝するものも多く、母親からの愛情を感じ、母親への愛情を表現する記述が多く見られた。また、頼れるなど今でも精神的な支えであることを伺わせる記述もあった。犠牲の記述では、自分を犠牲にして家族に尽くしたという内容のものがあった。

6. 妻

表 6

内容	度数	%
理解者・信頼できる人	76	18.5
大切な人	74	18.0
パートナー	72	17.5
妻に対する客観的描写	61	14.8
一生懸命・大変	55	13.3
妻に対する不満	24	5.8
こうであってほしい希望・期待	14	3.4
苦勞をかけている	10	2.4
その他	26	6.3
記入合計	412	100.0

妻については(表6)、様々な記述があり、最も分類が難しかった。妻に対するイメージが個人によって非常に違いがあり、妻の位置付けも様々であることが感じられた。

全体で見ると、ポジティブなイメージが非常に多く、一生のパートナー、一番の理解者、大切な人といった記述が多く見られた。また、家事や育児を一生懸命頑張っていると評価する記述も多かった。客観的描写では、嫁、職業などの記述があり、少し距離を感じるものもあった。希望・期待では、頑張ってもらいたい、綺麗でいてほしいなどの記述があった。

例 1

私にとって子どもとは 働くことの原動力であり、生きがい
 子育ては 大変難しい
 私にとって家族とは この世で一番大切なもの
 私の父 今でも尊敬し、目標としています
 私の母 妻とは違う安らぎを求められる相手
 妻 最も大切なパートナーであり、唯一心のやすらげる相手
 (42才 子ども・6才、女)

全体の印象では、子どもや家族の存在を大切なものと位置付け、子育てにも関わろうとしている父親が多いと感じられた。妻に対しても、パートナーとして信頼していることが感じられる。しかし、漠然としたイメージのものが多く、生活感に乏しいという印象が拭えない。家族や子育ては、イメージとしては大切なものであるものの、具体性を持つものとしてどれほど体感されているのか、疑問を感じるものも多かった。

例 2

私にとって子どもとは 大切な宝物
 子育ては 楽しいがつらい時もある
 私にとって家族とは 安らぎ
 私の父 仕事人間
 私の母 自分勝手
 妻 は大変だ
 (37才 子ども・5才、男)

両親に対しては、ポジティブなイメージを持っている父親が非常に多い。特に母親に対しては精神的なつながりの深さを感じさせるものが多く、親の存在が精神的な支えになっていることが伺われた。

例 3

私にとって子どもとは 大切な宝物です
 子育ては 人生でもっとも大事なことです
 私にとって家族とは なくてはならないものです
 私の父 は、優しい人で、根っからの善人です
 私の母 は、いつも小言を言っていますが、私のことを心配してくれています
 妻 がいなければ、我が家は成り立ちません
 (41才 子ども・6才 女)

夫として、父親として生活している家庭は、男性にとって主体的に作っていくものであるより帰る場であるように思われる。家庭の中、家族の中で果たす役割は、まだ男性自身の中で形作られていないのかもしれない。

ま と め

今回の調査の結果、回答した父親のほとんどは実父であり、平均年齢は 36 才であった。家庭の状況では、70%を超える父親が会社員をしており、家族構成は 85%が核家族、また妻が専業主婦をしている家庭が 50%近かった。会社員をして家族を支え、専業主婦の妻と子どもと暮らしているというのが、多くの父親の状況であると考えられる。

父親の子育て参加の現状は、子どもと一緒に夕食をとったり、お風呂に入ったり、遊んだりするのは、週に 1,2 回しかない父親がそれぞれ 50%近くあり、ほとんど休日しか子どもと関わる時間を持っていない父親が多いと考えられる。しかし、できていないがしたいと思っているという父親はそれぞれ約 30%あり、現状に満足せず、もっと関わりたいと思っている父親も多い。子どものしつけに関しては、言葉で叱ることには積極的な父親が多かったが、叩いて叱ることについては、ほとんどないが 80%、したいとは思わないが 60%で、子どもを叩かないでしつけようとする意識が高いことが伺われた。

一方、妻との関わりでは、家の仕事を手伝う、子育てについて話し合う共に、子どもに関わるより頻度が少なく、気持ちも消極的であった。また、子育てについて知人と話をすることはほとんどない父親が 65%近くおり、子育てに関わることを家庭の外で話題にしない父親が多いと考えられる。

父親が育った環境は、核家族が 65%で、自分の父親に世話をしてもらった人は 20%であった。幼児期に父や母に叩かれた人は 60%近くに上り、叩かれて育った父親が多かった。しかし、上述したように子どもを叩いていない父親は多く、叩くことに関する世代間の連鎖は見られなかった。

父親の子育て参加と諸要因との分析の結果、大きく分けて 2 つの要因が考えられた。まず、父親の職業や妻の職業、子どもの年齢など家族の状況である。会社員である父親、妻が専業主婦である父親は子育て参加度が低く、子どもの数が多くなり、また子どもの年齢が高くなると、父親の子育て参加は少なくなる傾向があった。家族の状況によって、父親の役割や子育てに対する意識に違いがあることが伺われた。

2 つ目の要因は、妊娠期、出産時の関わりである。妊婦検診の付き添いや父親学級の参加に積極的であった父親は、子育て参加度が高かった。また、出産時に出産する施設にいた父親、里帰りなどで子どもと離れる時期がなかった父親も子育て参加度が高かった。子どもが生まれてくる前から関心があり、妻と関わっていた父親は、その後の子育てにも関わっていると考えられる。

SCTの分析では、子どもや家族、妻に対して非常に理想的なイメージの記述が多かったのが特徴的であった。しかし、理想的であるものの、多少きれいすぎる印象があり、具体的な生活感に欠けるものが多かった。また、父親自身の母親に対する記述では、ポジティブなものが非常に多く、母親に対する精神的なつながりの大きさが感じられた。

以上の結果から、父親はあまり子育てに関わることができていないのが現状であると考えられる。子どもと関わる時間も、子育てや家事について妻と関わる機会も、十分であるとは言い難い。子育てに関して、父親の家庭における存在は希薄なのではないかと思われる。しかし、できていないがしたいと思っている父親も多くおり、子育てに関わりたいという気持ちはあると考えられる。今後、社会の状況の変化も合わせて、父親がもっと子育てに関わっていくことを期待したい。

また、子育て支援の視点から父親の子育て参加を見てみると、妊娠期、出産時に関わりがあった父親は子育てにも積極的に参加していることから、妊娠期、出産時からできるだけ父親を巻き込んでいくことが大切であろうと思われる。子どもに関わり、妻を支えることができる存在として、子育ての大きな柱として、父親の存在を重視していく必要があるのではないかと思われる。

おわりに

本調査は、前回実施した母親を対象とした調査の結果を受けて、父親の子育ての現状を把握することを目的としました。子育ての環境をさらに詳しく捉え、育児支援の在り方を考える資料として生かしたいと考えております。

本調査の結果から、父親があまり子育てに参加できていない現状が浮かび上がりました。その中で現状に満足せず、もっと子育てに関わりたいと思っている父親が多くいることも分かりました。また、子育てに参加する要因として、妊娠期、出産時から積極的に関わることや、父親に世話をしてもらった経験などが挙げられました。SCTの分析からは、家族や子どもに対するイメージが、非常にポジティブではあるが具体性に欠けるものとして浮かび上がりました。

このような結果をもとに、今後も考察を深め、社会における育児支援の研究を続けていきたいと思っております。

今後共、御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

甲南大学学術フロンティア子育て研究会代表

甲南大学文学部人間科学科教授 松尾 恒子

子育て環境と子どもに対する意識調査2

(無記名)

調査のお願い

父親版

こんな調査です

皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。

さて、甲南大学では、昨年度より文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクトの一環として子育て研究会を持ち、子どもの育児環境について調査、研究をすすめています。今回は主にお母さんに調査をお願いし、ご協力いただきましたが、今回は、主にお父さんの育児に対する考えを知りたいと考えています。今日の子ども達とご家族の置かれている環境や育児に対する考えを知り、育児をどのように支援していけるのかを考えるための資料として生かしたいと思っています。

お父さんにお答えいただけない場合は、ご家族の方がお答えいただいても結構ですので、ご多忙中のこととは存じますが、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

文部科学省学術フロンティア共同研究プロジェクト。。。。

このプロジェクトは、現代人のメンタリティを研究対象とし、特にその危機の側面に焦点をあて、臨床心理学および現代思想の立場から総合的な研究を行うものです。

子育て研究会。。。。

甲南大学カウンセリングセンターの教員およびカウンセラーで構成される研究会です。

お子さんが複数いる方は

お子さんのうち、就学前のお子さんを一人選んで、そのお子さんについてお答え下さい。

研究以外の目的には使用しません

この調査に記入されました事柄は、すべて統計的に処理し、研究以外の目的に使用することはありません。また、無記名ですので、お宅やお宅のお子さんにご迷惑をおかけすることは一切ありません。どうぞありのままをお答え下さい。

また、調査の結果をお知りになりたい方は下記までご連絡下さい。調査結果がまとまり次第、お送りいたします。

研究者代表

甲南大学文学部人間科学科教授 松尾 恒子

この調査についてのお問い合わせは、下記にご連絡下さい。

甲南大学文学部人間科学科 (〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1)

松尾研究室 TEL. 078-435-2372

文学部心理共同研究室 TEL FAX. 078-435-2682

これからおたずねすることについて、あてはまる選択肢に○をつけて下さい
() 及び _____ には、具体的に記入して下さい

あなたの年齢 _____ 才

お子さんとの続柄 ①実父 ②継父 ③その他 ()

あなたの職業 ①会社員 ②公務員 ③自営業 ④自由業 ⑤その他 ()

お母さん(妻)の職業 ①専業主婦 ②常勤 ③自営 ④パート・アルバイト ⑤その他 ()

現在同居している人についてその構成を書いて下さい(例 お子さん、父、母)
()

お子さんについてお答え下さい

第1子	才	ヶ月	男・女
第2子	才	ヶ月	男・女
第3子	才	ヶ月	男・女
第4子	才	ヶ月	男・女

今回お答えいただくお子さんは 第 _____ 子

今回お答えいただくお子さんが通っているのは ①保育所 ②幼稚園 ③その他 ()

I 妊娠期、出産時のことについてお聞きします

1. 子どもができたとわかった時どう思いましたか

①たいへんうれしい ②まあまあうれしい ③あまりうれしくない ④ぜんぜんうれしくない

2. 妊婦検診に付き添いましたか

①付き添って胎児の映像を見たり、心音を聞いたりしたことがある
②病院へ一緒に行ったことがある
③付き添ったことはない
④その他 ()

3. 父親学級や両親学級に参加しましたか

①参加したことがある ②参加したことはない ③その他 ()

4. 出産したのはどのような施設でしたか

①総合病院 ②産婦人科医院 ③助産院 ④自宅 ⑤その他 ()

5. どのような出産の形態でしたか

①普通分娩 ②無痛分娩 ③吸引、鉗子分娩 ④帝王切開 ⑤その他 ()

6. 出産の時、どこにいましたか

- ①出産する施設 ②勤務先 ③自宅 ④その他 ()



出産する施設に付き添った方は、どのような援助をしましたか

- ①お母さん(妻)とは離れて待っていた ②陣痛期を一緒に過ごした
③分娩に立ち会った ④その他 ()

7. はじめて子どもを抱いた時どんな気持ちになりましたか

- ①たいへんうれしい ②まあまあうれしい ③あまりうれしくない ④ぜんぜんうれしくない

8. 出産の後、里帰りなどで子どもと離れている時期がありましたか

- ①離れている時期があった ②離れている時期はなかった
③その他 ()

II あなたの今の状況とそれに対する気持ちに一番近いものはどれですか
各質問項目について、それぞれa.今の状況、b.気持ち、c.具体的な
状況を記入して下さい

1. 子どもと一緒に夕食をとる

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()

- b ①自分からすすんでしている ②すすんでは
ないがしている ③できていないが
したいと思っている ④したいとは思
わない ()

2. 子どもと一緒にお風呂に入る

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()

- b ①自分からすすんでしている ②すすんでは
ないがしている ③できていないが
したいと思っている ④したいとは思
わない ()

3. 子どものあそび相手になって一緒に遊ぶ

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()

- b ①自分からすすんでしている ②すすんでは
ないがしている ③できていないが
したいと思っている ④したいとは思
わない ()

4. 子どもをだっこしたり、スキンシップをする

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()

- b ①自分からすすんでしている ②すすんでは
ないがしている ③できていないが
したいと思っている ④したいとは思
わない ()

- c どんな時にだっこしたり、スキンシップをしますか ()

5. しつけのために、子どもを言葉で叱る

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()

- b ①自分からすすんでしている ②すすんでは
ないがしている ③できていないが
したいと思っている ④したいとは思
わない ()

- c どんなことをした時に言葉で叱りますか ()

6. しつけのために、子どもを叩いて叱る

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()
- b ①自分からすすんでしている ②すすんではなないがしている ③できていないがしたいと思っている ④したいとは思わない ⑤その他 ()
- c どんなことをした時に叩いて叱りますか ()

7. 家の仕事を分担して手伝う

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()
- b ①自分からすすんでしている ②すすんではなないがしている ③できていないがしたいと思っている ④したいとは思わない ⑤その他 ()

8. 子育てについて、お母さん(妻)と話し合う

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()
- b ①自分からすすんでしている ②すすんではなないがしている ③できていないがしたいと思っている ④したいとは思わない ⑤その他 ()

9. 子育てについて知人と話をする

- a ①ほとんど毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2回 ④ほとんどない ⑤その他 ()
- b ①自分からすすんでしている ②すすんではなないがしている ③できていないがしたいと思っている ④したいとは思わない ⑤その他 ()

III あなたご自身についておたずねします

1. 子どもの頃の家族構成は

(あなた・)

2. 子どものころ主に世話をしてくれた人は(複数回答可)

- ①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤その他 ()

3. 幼児期のことを思い起こして、各項目の該当するものに○をつけて下さい。

	非常にあてはまる	あてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
①父と母は仲がよかった。少なくとも子どもの前で争ったことはない。					
②父親は暇なときに、よく肩ぐるまに乗せてくれたり、すもうの相手になってくれた。父親のからだの感触を覚えている。					
③自分が病気をしたときに親は心から心配してくれた。					
④父や母は、お互いの悪口やぐちを子どもたちの前でいうことはなかった。					

⑤母に抱きついて甘えた記憶がある。

--	--	--	--	--

⑥家族そろって食事が楽しかった。食事のときに叱られたことはなかった。

--	--	--	--	--

⑦親は私自身をいい子だと誇りに思っていたようだ。

--	--	--	--	--

⑧父が帰宅するとお帰りなさいと、とんで行った。
当時の父を自分は好きだった。

--	--	--	--	--

⑨当時の母を好きだった。
母がいないとさびしかった。

--	--	--	--	--

⑩父や母に叩かれることはなかった。

--	--	--	--	--

4. 次の書きかけの文章を見て、あなたの頭に浮かんできたことをそれにつづけて書き、その文章を完成して下さい。

私にとって子どもとは _____

子育ては _____

私にとって家族とは _____

私の父 _____

私の母 _____

妻 _____

お差し支えなければ、子育てについてのご意見などを自由にご記入下さい。

--

お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました

研究会メンバー一覧

代表 松尾 恒子（甲南大学文学部教授）

青柳 寛之（甲子園大学講師・甲南大学学生相談室）

高石 恭子（甲南大学文学部助教授・学生相談室）

常井千恵子（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム）

友久 茂子（甲南大学学生相談室）

福井 裕子（甲南大学学生相談室）

ー以上・学術フロンティア研究員

大島 博子（甲南大学心理共同研究室）

甲斐 暁子（甲南大学人文科学研究科）

紀平さやか（甲南大学人文科学研究科）